

子曰、参乎、吾道一以貫之。曾子曰、唯。子出、門人問曰、何謂也。曾子曰、夫子之道、忠恕而已矣。

子曰参乎吾道一以貫之曾子曰
唯子出門人問曰何謂也曾子曰
夫子之道忠恕而已矣

子曰く、参よ、吾が道は一以て之を貫く、と。曾子曰く、唯、と。子出づ。門人問いて曰く、何の謂ぞや、と。曾子曰く、夫子の道は忠恕のみ、と。

——先生が曾参先生にいわれた、

——曾参よ、我が道は一つのもので貫かれている。

——曾参先生は、こういわれた、

——さようでございます。

——先生が退出されると、門人が曾参先生にたずねた、

——どういう意味なのですか。

——すると曾参先生はいわれた、

——先生の道に一貫しているものは、忠(まこと)と恕(おもいやり)に尽きるということです。

テーマ

026 自分自身を省みる

子曰見賢思齊焉見不賢而内自省也

活字体ではなく、初唐の楷書体にもとづく練達の書家による美しい手本

原文

子曰、見賢思齊焉、見不賢而内自省也。

訓読

子曰く、賢を見ては斉しからんことを思え、不賢を見れば内に自ら省みるなり。

理解しやすい口語訳

先生は、このようにいわれた、

——すぐれた人物に出会ったときは、自分も同じような人間になりたいと思ふことだ。また、つまらない人物に出会ったときは、いったい自分自身はどうだろうかと心のうらで反省してみるのだな。

訓読・口語訳のすべての漢字に、みがなをつけています